

2. 全数把握対象感染症患者届出状況

(1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況

	疾 患 名	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)
二類	結核	147	143	136	123	131
三類	細菌性赤痢			1		
	腸管出血性大腸菌感染症	13	11	14	17	19
	パラチフス		1			
四類	A型肝炎				1	
	重症熱性血小板減少症候群	4	1	9		3
	つつが虫病	2	1		3	
	デング熱			1		
	日本紅斑熱	10	4	12	7	10
	マラリア			1		
	ライム病					
	レジオネラ症	15	14	13	21	23
五類	アメーバ赤痢	3	3	7	1	2
	ウイルス性肝炎 (E型、A型を除く)	2	2	2	1	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	8	11	7	13
	急性弛緩性麻痺(急性白髄炎を除く) ¹⁾		1			
	急性脳炎	1	4	2		1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2	3	2	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		3	4	2	
	後天性免疫不全症候群	5	9	4	3	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	1	4	5	3
	侵襲性髄膜炎菌感染症				1	
	侵襲性肺炎球菌感染症	6	9	11	7	6
	水痘 (入院例)	2	6	5	3	4
	梅毒	14	30	30	23	21
	播種性クリプトコックス症		2	3	2	4
	破傷風	3	4		1	4
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1	
	百日咳 ²⁾		31	80	3	43
	風しん		3	2		
麻しん		1	1			
※	新型コロナウイルス感染症 ³⁾⁴⁾⁵⁾				199	3,092

※新型インフルエンザ等感染症

¹⁾平成30年5月1日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

²⁾平成30年1月1日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

³⁾令和2年2月1日より全数把握対象疾患感染症(指定感染症)へ指定された。

⁴⁾令和3年2月13日より全数把握対象疾患感染症(新型インフルエンザ等感染症)へ指定された。

⁵⁾令和4年9月26日より全数届出の見直しの運用が開始された。

(2) 各疾病の届出状況

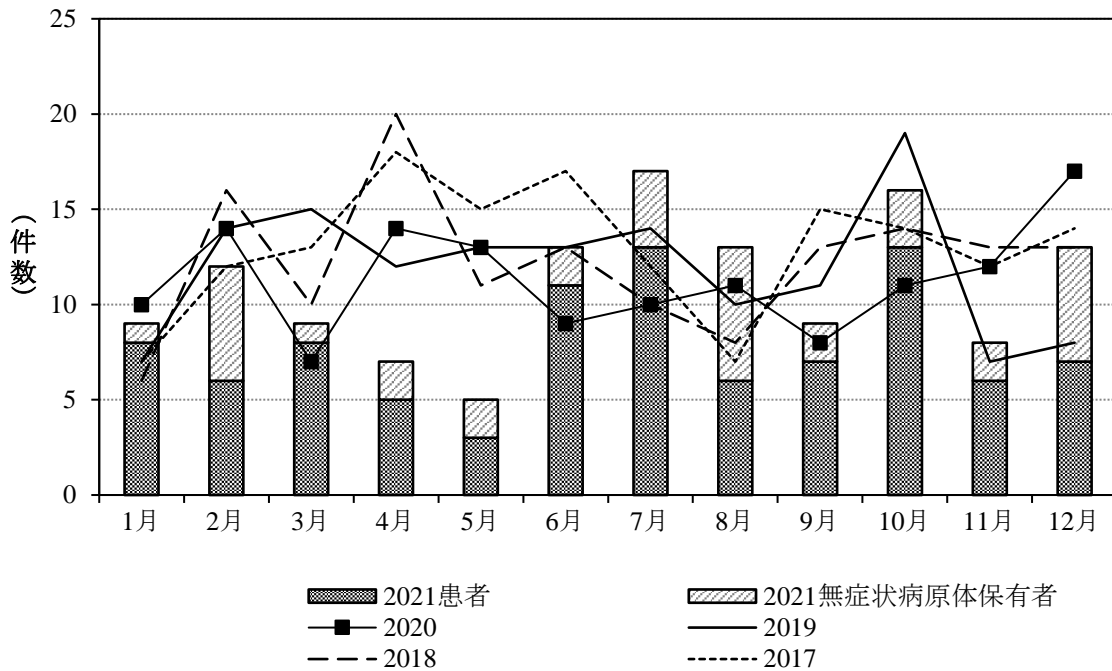
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

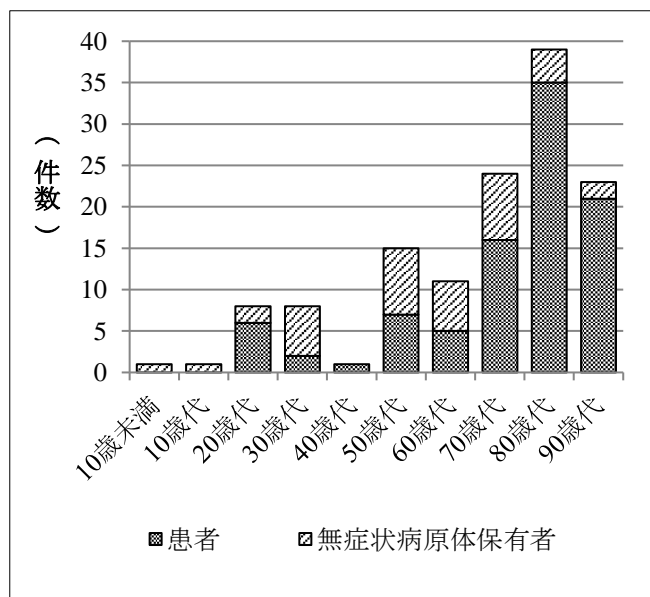
【結核の月別届出数】



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	1	0	1
10歳代	0	1	1
20歳代	3	5	8
30歳代	6	2	8
40歳代	0	1	1
50歳代	3	12	15
60歳代	2	9	11
70歳代	18	6	24
80歳代	20	19	39
90歳以上	7	16	23
計	60	71	131

【年齢・症状別届出数】



年間届出数は131件であった。過去5年間の年間届出数は2016年以降漸減傾向であったが、2021年はやや増加した。

診断の類型では、「患者」が93件（内訳：肺結核60件、その他の結核24件、肺結核及びその他の結核9件）と最も多く、「無症状病原体保有者」は38件であった。

年齢別にみると、70歳代（24件）、80歳代（39件）、90歳以上（23件）と、70歳以上の届出が合計86件と全体の約66%を占めた。性別では、男性60件、女性71件と女性が多かった。

年齢別に症状を比較した場合、70歳以上では「患者」が約84%と大部分を占めたのに対し、70歳未満では「無症状病原体保有者」の割合が約53%、「患者」の割合が約47%であった。10歳代以下は「無症状病原体保有者」の割合が100%であった。

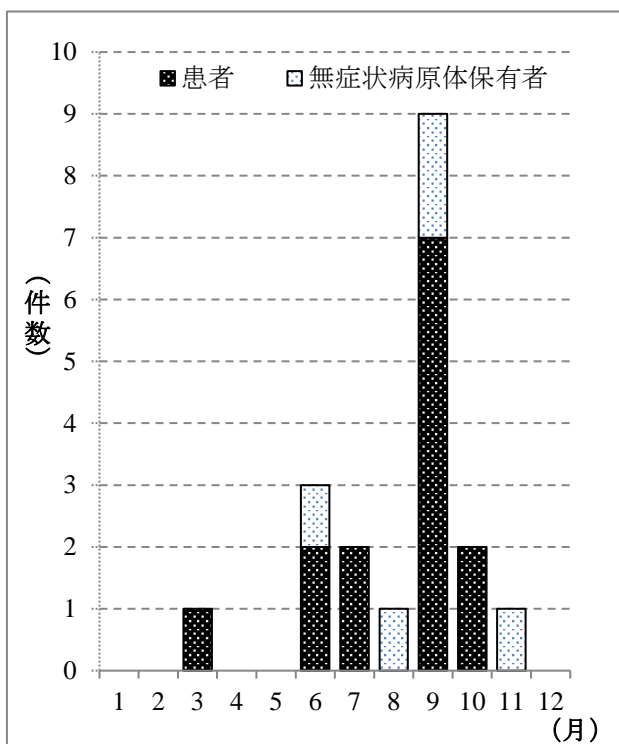
職業別では、医療・介護などの施設関係者や会社員、接客業等、集団感染に繋がる環境にある者も見られたことより、感染拡大防止のため感染予防啓発や感染対策の徹底が不可欠と考えられた。

《三類感染症》

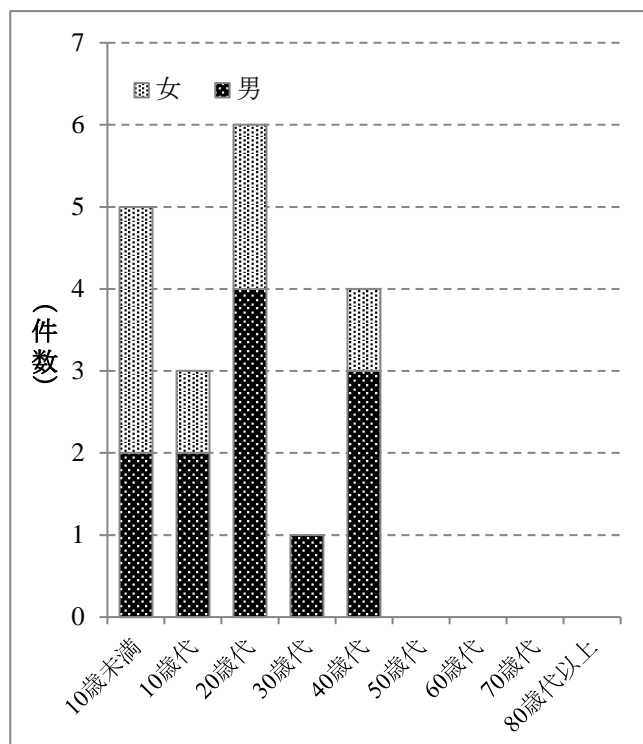
② 腸管出血性大腸菌感染症

診断月	性別	年齢	症状	型別	推定感染地域
3月	男	10歳代	腹痛、水様性下痢	O26 (VT1)	国内
6月	男	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O111 (VT1)	国内
6月	女	20歳代	無症状病原体保有者	O111 (VT1)	国内
6月	女	10歳未満	腹痛、水様性下痢	O26 (VT1)	国内
7月	男	30歳代	腹痛、水様性下痢	O157 (VT1、VT2)	国内
7月	女	10歳未満	嘔吐、発熱、急性腎不全、溶血性尿毒症症候群	O157 (VT1、VT2)	国内
8月	男	40歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT1、VT2)	国内
9月	男	20歳代	腹痛、血便	O157 (VT1、VT2)	国内
9月	女	10歳代	腹痛、血便、発熱	O157 (VT1、VT2)	国内
9月	男	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT1、VT2)	国内
9月	男	10歳代	水様性下痢	O157 (VT1、VT2)	国内
9月	男	20歳代	腹痛	O157 (VT1、VT2)	国内
9月	女	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157 (VT1、VT2)	不明
9月	女	40歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT1、VT2)	国内
9月	男	40歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT1、VT2)	国内
9月	女	10歳未満	無症状病原体保有者	O157 (VT1、VT2)	国内
10月	男	10歳未満	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱	O157 (VT1、VT2)	国内
10月	男	10歳未満	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱、溶血性貧血、急性腎不全、溶血性尿毒症症候群	不明	国内
11月	男	40歳代	無症状病原体保有者	O112ab (VT1、VT2)	不明

【月別・症状別届出数】



【年齢・性別届出数】



年間届出数は、19件で前年（17件）からやや増加した。過去5年間では最も多かった。

一般に本疾患は夏から秋に多いとされる。月別の届出は、3月と6月～11月に見られた。中でも9月は9件で全体の約47%を占めた。

年齢別では、10歳未満から40歳代で届出があり、性別では、男性12件、女性7件と男性が多かった。診断の類型では「患者」が14件、「無症状病原体保有者」5件と「患者」が多かった。症状は腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐など複数の症状を訴えており、中には急性腎不全や溶血性尿毒症症候群が見られた。血清型別は、本疾患の多くを占めるO157が13件、O26及びO111がそれぞれ2件、O112abが1件、不明1件であった。

「患者」報告例の感染経路や感染源は、経口感染9件（肉の喫食6件、その他3件）、その他1件、不明4件、感染地域は国内13件、不明1件であった。また、「無症状病原体保有者」5件のうち2件は「患者」との接触者検診から判明し、3名は感染経路や感染源は不明であった。

《四類感染症》

③ 重症熱性血小板減少症候群

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	60歳代	発熱、神経症状、下痢、血小板減少、白血球減少、刺し口	不明	不明
8月	男	70歳代	発熱、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	国内
10月	女	80歳代	発熱、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、刺し口	マダニ等からの感染	国内

年間届出数は3件であり、本年は2年ぶりの発生となった。届出月は6、8、10月と、マダニの活動時期にあたる春から秋であった。年齢及び性別は60～80歳代の男性2件、女性1件であった。感染経路は、2件は農作業などの野外活動時にマダニ等に刺咬され感染したと推定され、1件は不明であった。

徳島県では本疾患をはじめ、つつが虫病、日本紅斑熱など、病原体を保有するマダニ等の刺咬による感染症が毎年のように発生しており、重症化例も見られる。近年、キャンプや登山などの人気の高まりを受け、草むらや山林などマダニの生息地に人が近づく機会が増えており、アウトドアレジャー、林業、農作業など野外活動の際の、ダニ・昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

④ 日本紅斑熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	女	90歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
6月	女	80歳代	発熱、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
6月	女	80歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常、関節痛、腎障害、低Na、血小板減少	マダニ等からの感染	国内
6月	男	80歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
6月	女	50歳代	発熱、発疹	マダニ等からの感染	国内
7月	女	80歳代	発熱、発疹	マダニ等からの感染	国内
7月	男	50歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内
8月	女	70歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
9月	女	60歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10月	女	70歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内

年間届出数は10件であった。過去5年間での年間届出数推移は4～12件と、年毎で差が大きい。届出月は5～10月と、重症熱性血小板減少症候群と同様にマダニの活動時期と一致していた。年齢は50～90歳代で、性別は男性2件、女性8件であった。感染経路は農作業等の野外活動時にマダニに刺咬されたと推定された。

⑤ レジオネラ症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4月	男	80歳代	呼吸困難、肺炎	不明	国内
4月	女	80歳代	発熱	不明	不明
4月	男	70歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	不明	国内
4月	女	70歳代	発熱	不明	国内
5月	男	60歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、腹痛、下痢、肺炎	水系感染	国内
5月	男	60歳代	発熱、肺炎	塵埃感染	国内
7月	男	50歳代	発熱、肺炎	不明	不明

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	男	90歳代	発熱、肺炎	その他	国内
7月	男	40歳代	発熱、咳嗽	不明	不明
7月	男	60歳代	発熱、咳嗽、下痢、肺炎	不明	国内
7月	男	90歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	不明	国内
7月	男	60歳代	発熱、咳嗽	塵埃感染	国内
7月	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、下痢、肺炎	水系感染	国内
8月	男	60歳代	発熱、肺炎、咯血	不明	不明
8月	男	90歳代	発熱、呼吸困難、肺炎、多臓器不全、電解質異常	その他	国内
10月	男	50歳代	発熱、咳嗽	不明	国内
10月	男	40歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、下痢、肺炎、下肢筋肉痛	水系感染	国内
10月	女	80歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	水系感染、 塵埃感染	国内
10月	女	60歳代	咳嗽、呼吸困難、肺炎	不明	国内
10月	男	70歳代	呼吸困難、肺炎	その他	国内
11月	男	40歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、下痢、肺炎	水系感染、 塵埃感染	国内
12月	男	60歳代	発熱、肺炎	水系感染	国内
12月	男	80歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内

年間届出数は23件であった。2014年以前は毎年1～3件で推移していたが、2016年以降は毎年10件を超えており、本年は過去5年間で最も多かった。届出月は、4、5、7、8、10～12月で、年齢は40～90歳代と幅広く、性別は男性19件、女性4件であった。病型は20件が「肺炎型」で、3件が「ポンティアック熱型」であった。推定感染経路は水系感染が4件、塵埃感染が2件、水系感染と塵埃感染両方が2件、その他3件、不明12件、感染地域は国内19件、不明4件であった。

《五類感染症》

⑥ アメーバ赤痢

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	男	60歳代	下痢、粘血便、大腸粘膜異常所見	不明	国内
6月	男	30歳代	大腸粘膜異常所見、低潜血陽性	不明	国内

年間届出数は2件であった。年齢及び性別は30歳代と60歳代のいずれも男性で、病型は「腸管アメーバ症」であった。推定感染経路は不明で、感染地域は国内と推定された。

⑦ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染原因・経路	推定感染地域
3月	男	70歳代	胆嚢炎	その他	国内
3月	女	70歳代	胆管炎	以前からの保菌	不明
4月	男	50歳代	腹腔内膿瘍	医療器具関連感染	国内
6月	女	70歳代	尿路感染症	不明	国内
6月	男	70歳代	腹膜炎、敗血症	不明	不明
7月	女	80歳代	術後腹腔内膿瘍	手術部位感染	国内
8月	男	70歳代	肺炎	医療器具関連感染	国内
9月	女	70歳代	菌血症	以前からの保菌	国内
9月	男	60歳代	腹膜炎、菌血症	手術部位感染	国内
9月	男	80歳代	尿路感染症	以前からの保菌	国内
11月	女	90歳代	胆管炎	以前からの保菌	国内
11月	男	70歳代	肺炎	不明	国内
12月	男	70歳代	尿路感染症	以前からの保菌	国内

年間届出数は13件であった。年齢は50～90歳代で、性別は男性8件、女性5件であった。推定感染経路は手術部位や医療器具を介しての感染4件、以前からの保菌5件、その他1件、不明3件であった。感染地域は国内11件、不明2件と推定された。

⑧ 急性脳炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
11月	男	70歳代	発熱、頭痛、嘔吐	不明	国内

年間届出数は1件であった。年齢及び性別は、70歳代の男性であった。検出された病原体は「単純ヘルペスウイルス」で感染経路は不明、感染地域は国内と推定された。

⑨ クロイツフェルト・ヤコブ病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	男	60歳代	進行性認知症、ミオクローヌス 錐体路症状、小脳症状、記憶障害	不明	不明
7月	男	70歳代	進行性認知症、ミオクローヌス 錐体路症状、視覚異常、記憶障害、精神・ 知能障害	不明	不明
12月	男	80歳代	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路 症状、錐体外路症状、小脳症状、無動性 無言状態、精神・知能障害、筋強剛	不明	不明

年間届出数は3件であった。年齢別は60歳代～80歳代で、性別は全て男性であった。病型はいずれも「古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）」で、感染経路・地域は不明であった。

⑩ 後天性免疫不全症候群（HIV）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	男	70歳代	口腔カンジダ、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス感染	不明	国内
4月	男	30歳代	発熱、呼吸困難、ニューモシスチス肺炎	性的接触	国内
7月	男	20歳代	倦怠感、咽頭痛、頭痛、発熱、腰痛 皮疹	同性間性的接触	国内
10月	男	30歳代	発熱、呼吸困難、咽頭痛、倦怠感、 体重減少	同性間性的接触	不明

年間届出数は4件であり、過去5年間の届出数は3～9件で推移している。年齢別は20歳代1件、30歳代2件、70歳代1件で、性別は全て男性であった。病型は「AIDS」3件、その他1件で、感染経路は同性間での性的接触2件、性的接触1件、不明1件であった。感染地域は、国内での感染が3件、不明が1件と推定された。

例年、県内保健所で実施される無料検査にて発見され、地域連携医療機関での診断や報告につながっているが、本年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い検査の機会が減少したため、十分な診断に結びつかなかった可能性が懸念される。今後も、積極的な普及啓発を推進し、HIV感染の早期発見による早期治療と感染拡大の抑制に努めることが重要と考えられた。

⑪ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	男	5歳未満	発熱、菌血症	不明	国内
8月	男	40歳代	肺炎	その他	国内
11月	女	90歳代	発熱、肺炎、菌血症	中心静脈カテーテル由来 血流感染	国内

年間届出数は3件であり、過去5年間の届出数は1～5件で推移している。年齢別は5歳未満1件、40歳代1件、90歳代1件で、性別は男性2件、女性1件であった。いずれも国内にて感染し、推定感染経路は中心静脈カテーテル由来血流感染1件、その他1件、不明1件であった。

⑫ 侵襲性肺炎球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	男	5歳未満	発熱、全身倦怠感、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内
5月	男	80歳代	発熱、咳、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内
5月	男	5歳未満	発熱、全身倦怠感	飛沫・飛沫核感染	国内
11月	女	5歳未満	発熱	不明	国内
11月	男	70歳代	発熱、全身倦怠感	飛沫・飛沫核感染	国内
12月	男	10歳代	頭痛、発熱、全身倦怠感、嘔吐、 意識障害、髄膜炎、菌血症	上気道からの血液、 髄液への感染	国内

年間届出数は6件であり、過去5年間の届出数は6～11件で推移している。年齢別は5歳未満3件、

10歳代1件、70歳代1件、80歳代1件で、性別は男性5件、女性1件であった。感染経路は飛沫・飛沫核感染が4件、上気道からの血液、髄液への感染1件、不明1件、感染地域は全て国内と推定された。

⑬ 水痘（入院例）

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	10歳未満	発疹	飛沫・飛沫核感染	国内
8月	男	40歳代	発熱、発疹	接触感染	国内
9月	男	60歳代	発熱、発疹	不明	国内
9月	男	50歳代	発熱、発疹	不明	国内

年間届出数は4件で、過去5年間の届出数は2～6件で推移している。年齢別は10歳未満1件、40歳代1件、50歳代1件、60歳代1件で、性別はいずれも男性であった。感染経路は飛沫・飛沫核感染1件、接触感染1件、不明2件で、感染地域は全て国内と推定された。

⑭ 梅毒

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
2月	男	60歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内
3月	女	20歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
3月	男	60歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
3月	男	20歳代	初期硬結（性器）	性的接触	国内
3月	女	80歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
4月	女	40歳代	丘疹性梅毒疹、扁平コンジローマ	性的接触	国内
4月	女	20歳代	鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）、梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
5月	女	40歳代	硬性下疳（性器）、硬性下疳（肛門）	異性間性的接触	国内
5月	女	10歳代	鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
6月	男	60歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
6月	男	80歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
6月	女	40歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
6月	男	40歳代	硬性下疳（性器）	不明	国内
9月	男	40歳代	その他（亀頭部の潰瘍）	同性間性的接触	国内
9月	女	30歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
9月	女	30歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
9月	男	30歳代	鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
10月	男	20歳代	その他（脱毛斑）	性的接触	国内
10月	男	50歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	不明	不明
10月	男	40歳代	梅毒性バラ疹	不明	国内
12月	男	40歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内

年間届出数は21件であった。年齢別は10～40歳代15件、50歳代～60歳代4件、80歳代2件と若年層に多く、性別は男性12件、女性9件であった。性別に症状を比較した場合、男性では「患者」が約92%と大部分を占めたのに対し、女性では「患者」の割合は約67%であった。感染地域は国内が19件と推定され、不明2件であった。

現在、我が国では若年層を中心に梅毒患者の増加が大きな問題となっている。HIVと同様に、発生報告の多い10～40歳代を中心に、感染者及びパートナーともに積極的な感染予防啓発が重要と考えられた。

⑮ 播種性クリプトコックス症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染原因	推定感染地域
6月	男	50歳代	発熱、皮疹、紅斑、真菌血症	免疫不全	国内
9月	女	70歳代	発熱、紅斑、真菌血症	免疫不全	国内
11月	女	100歳代	発熱、呼吸器症状、胸部異常陰影	免疫不全	国内
12月	男	70歳代	頭痛、発熱、意識障害	免疫不全	国内

年間届出数は4件であった。過去5年間の届出数は0～4件で推移している。年齢別は50歳代1件、70歳代2件、100歳代1件で、性別は男性2件、女性2件であった。感染原因はいずれも免疫不全で、感染地域は国内と推定された。

⑯ 破傷風

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	女	40歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害	創傷感染	国内
8月	男	80歳代	筋肉のこわばり、開口障害	創傷感染	国内
8月	女	40歳代	筋肉のこわばり	創傷感染	国内
12月	女	80歳代	開口障害、嚥下障害、発語障害	創傷感染	国内

年間届出数は4件であった。過去5年間の届出数は0～4件で推移している。年齢別は40歳代2件、80歳代2件で、性別は男性1件、女性3件であった。感染経路はすべて創傷感染で、感染地域は国内と推定された。

⑰ 百日咳

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	女	10歳未満	持続する咳	不明	国内
6月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
6月	女	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
6月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
6月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
6月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
6月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
6月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
6月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
6月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、 ウーブ、嘔吐	家族内感染	国内
6月	女	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
6月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
6月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
6月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
6月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
6月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	児童福祉施設	国内
7月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
7月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7月	女	30歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7月	男	10歳代	夜間の咳き込み	不明	国内
7月	男	30歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7月	女	30歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、 スタッカート	不明	国内
7月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7月	女	10歳未満	持続する咳	不明	国内
8月	女	10歳代	持続する咳	不明	国内
8月	男	10歳代	持続する咳	不明	国内
9月	女	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
9月	男	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
10月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
10月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
11月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
11月	女	10歳未満	持続する咳	不明	国内
11月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	学校感染	国内
11月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
11月	男	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
11月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
11月	女	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
11月	男	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
11月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
11月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内

百日咳は、以前は小児科定点把握疾患として報告されていたが、2018年1月1日より五類全数把握対象感染症に指定された。2019年は80件、2020年は3件と、前年は大幅に減少したが、2021年の届出数は43件と再び増加した。年齢別は10歳未満31件、10歳代9件、30歳代3件で、性別は男性22件、女性21件であった。感染経路は家族内感染が14件、児童福祉施設や学校関連の感染が12件、不明が17件であった。感染地域はいずれも国内であった。

《新型インフルエンザ等感染症》

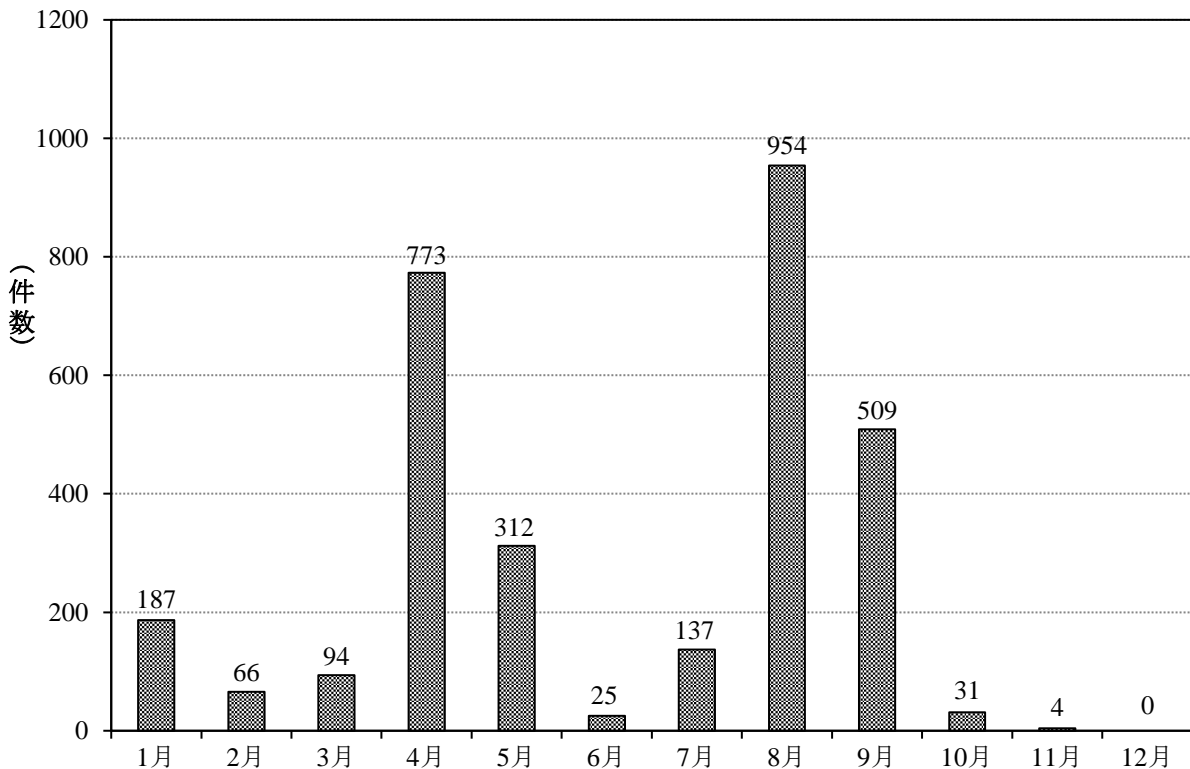
⑱ 新型コロナウイルス感染症

2020年2月1日より指定感染症と定められ、2021年2月13日からは、期限の定めなく対策が講じられるよう、新型インフルエンザ等感染症の中に新型コロナウイルス感染症、再興型コロナウイルス感染症を追加することと改正された。

2021年の届出数は3,092件であり、月別届出数は8月の954件が最も多く、次いで4月の773件、9月の509件の順であった。春先や長期休暇など人々が移動する機会が多い時期に感染者が増加する傾向が認められた。年齢別では、20歳代が654件と全体の約21%を占めた。続いて40歳代451件、10歳代435件、30歳代399件の順に多かった。性別では男性1,698件、女性1,394件と男性が多かった。

また医療・介護施設や学校などで集団感染が見られたことより、感染拡大防止のため施設や学校関係者等に対し、感染予防啓発、施設内感染対策の徹底について注意喚起が不可欠と考えられた。

【新型コロナウイルス感染症の月別届出数】



【年齢別届出数】

	人数	比率 (%)
10歳未満	152	5
10歳代	435	14
20歳代	654	21
30歳代	399	13
40歳代	451	15
50歳代	342	11
60歳代	261	8
70歳代	196	6
80歳代以上	202	7
計	3,092	100

